

第5回 富山県ウッド・チェンジ協議会 議事概要

日時：令和8年7月22日（水）14:00～15:30

会場：県民会館 302 号室

概要：

はじめにアドバイザーである(株)モリアゲ 長野代表から全国でのウッド・チェンジに関する話題提供をいただき、次に全国初の国際建築基準 LBC 認証の取得を目指す PLAY EARTH PARK プロジェクトから、(株)PLAY EARTH PARK 斉藤取締役事業本部長、および(株)島田木材 島田 代表取締役社長より説明があり、最後に事務局から「富山県内での木造建築物の建て方～コスト編～」の素案および、「県産材の利用促進に関する基本計画」の改定案の方向性について、会員に意見を求めた。

【会長挨拶】（津田農林水産部長）

【議事】

（1）アドバイザーからのウッド・チェンジに係る情報提供

森林林業基本計画～百年つづく「森の国・木の街」へ～のポイント

- ・利用期を迎えた木をちゃんと使って森の国を作っていくために、川上～川下のサプライチェーンを構築し、適正で合理的な価格形成を目指す。（木材価格が安すぎてこのままだときちんと再造林されない。）
- ・責任ある木造建築原則がブラジルで策定。
- ・建築ライフサイクルカーボン評価（LCA）制度が2028年度から導入。5000㎡以上の建築物については建築主がLCA結果を国に提出することが義務付けられる。

全国的なウッドチェンジの取り組み紹介

- ・愛知の(株)タマディックがサウナつきのオフィスを導入。会社の生産性があがり売上があがった。ウェルビーイングが施主からも注目されている事例。
- ・鹿児島の小浜ヴィレッジで街づくり全体を木や製材でやっていこうという取り組みを行っている。林業を代々やってきた地元の工務店が民設民営で街を作った。県産材を豊富に使い集落を作り移住者もとりにれた新しいコミュニティを作った。
- ・大工がいなくても可能なオフサイト建築方式で木造応急住宅をつくる取り組み。国会内でも展示された（ネット上に動画あり）。大工が減っていく中で建物を迅速にたてることを考える時代になっている。
- ・成田空港の窒素酸化物測定装置をウッドチェンジして地域の風景にマッチさせた。富山にも16局あるので耐用年数がきたらぜひ。
- ・森の関係人口の創生＝森業。林業・木材生産以外の森から生まれる富を活性化していこうという取り組み。
- ・企業の森林内での人材育成研修が増えている。森林の癒し×愛社精神のはぐくみで相性が良い。また、自分で植えた木を使いたいということで、自社のオフィスに木を使うことにもつながる。人事院も森で研修を行っている（長野氏が講師。）富山県でも県営林等でやってみては。
- ・「水を使う人は森を支える」ということでデータセンターで冷やすのに使う水の分森林組合にお金を払うという取り組みをYahooが始めた。

(2) PLAY EARTH PARK プロジェクトについての情報提供

① (株) PLAY EARTH PARK

- ・2024 年「人を挑戦に導き、人と自然の可能性を広げる」という新たな企業目標に基づき、Lifestyle creative company を目指して、アパレル等のモノづくりだけでなく様々な体験（コトづくり）が生まれる環境づくりを行っていくことを会社の主要事業として改めて位置づけた。
- ・2027 年夏の開園を目指して PLAY EARTH PARK を施工中。
- ・一番大きな施設となるプラザ棟は日本で初めての再生型建築の国際認証制度「Living Building Challenge」(LBC 制度) の取得を目指している。
- ・LBC 制度：もともと建築は環境負荷が高いとされるが、環境負荷を低減するだけではなく、建物を建てたことで周辺の環境がよりよくなる取組。建物そのものだけではなく、建てた後の 1 年間の実績を評価し、認証となる。
- ・周辺地域の県産材と FSC 認証材を 50% 以上活用を実現するために、県産材の活用協定を結び、そうしてできた大規模な建築で主事業のショップ展開を行う。
- ・スギ、ヒノキ、カラマツ材等の県産材を活用し、木を使うその先も含めて引き続き取り組んでいく。氷見の震災により被災した建築材をサルベージして再利用する取組みも行っている（責任ある木造建築原則）。

② 富山県素材生産組合（(株) 島田木材）

- ・FSC 認証取得のために、となみ地区木材林業振興協議会をつくった。
- ・LBC 認証の最上位のハードルのひとつに、木材を FSC 認証材で 50% 以上使い、かつ 500km 県内の木材を使うという目標があり、それを乗り越えるために協定を結んだ。
- ・FSC 認証は、合法性等の 7 つの項目をクリアした森林から切り出すという認証であり、山側サイドで FM 認証、加工・流通サイドで CoC 認証を両方取得する必要がある。協議会内で FM 側と CoC 側に分かれて認証の準備を行い、現在も審査中。（5 年間、朝から夕方まで厳しい数日間の審査を受ける。）
- ・今回大型建築なのでカラマツの利用が非常に多かった。現状富山はスギ材が多いが、スギ一辺倒ではない多様な樹種での山づくりが、多様な建築につながっていくのだと実感した。業界としてもレベルアップにつながるいい取組みに参加させていただいていると感じている。

(3) 「富山県内での木造建築物の建て方～コスト編～」の作成について（説明）

- ・令和 5 年に県内の民間事業者 1000 社からアンケートを行った結果、木材を店舗等に使用する際のデメリットとして多く上がったネガティブイメージを払拭するためにパンフレットを作成している。
- ・耐火性、耐震性ときて、3 年目の今年はコストについて素案を作成。

(4) 県産材の利用促進に関する基本計画の改定について（説明）

- ・富山県総合計画の策定をうけ、今年度富山県森林・林業計画振興計画を改定予定。さらにその個別計画として、県産材の利用促進に関する基本計画を改定。基本計画案の方向性について、意見があればこの場でご教示いただきたい。

(5) 意見交換

○石動西部こども園

- ・十数年前に県産材を使って床材や腰壁の工事を行った。
 - ・最近では学童施設を木造で建てた。その際ちょうどウッドショックの時期で、当初予算をかなりオーバーした。木の値段がかなり高くなっていることを実感し、木を使っていくうえで問題と感じている。
 - ・PLAY EARTH PARK の取組み紹介の中で、小さい子供がどのくらい遊べるのか教えてほしい。
- ⇒ ((株) PLAY EARTH PARK) 未就学児から遊べるような環境を作りたいと考えている。学級学習や放課後の遊び場として活用できるような場所を目指しているが、自然が主なフィールドのため、猛暑日の子供の熱中症をどう乗り切るかが課題だと感じている。

○ラミネート・ラボ(株)

- ・木造木質建築および集成材の製造加工を行っている。普段の事業範囲は建築施工に注力しているので、川下側のプレイヤーだと思って今回出席している。
- ・非住宅建築に特化して事業を行っているが、川下側の場合、大抵はコスト面やどうやって具体的かつ現実的に施工していくかで会話がスタートすることがほとんど。川上からの木材と施工コストのバランスが、木造建築を推進するにあたりかなり難しいポイントだと感じている。また、供給者側の理屈だけでは木造化を實現できない面もあるので、川下側の建築施工側の意見も取り入れることで、一番現実的に進むのではと考えている。
- ・今日の話を聞いて、「なぜ木を使った建物を建てるのか」というストーリーを盛り込むのが一番大事だと痛感した。単にコスト面でつっぱしると、一次生産者側に不利益を被る場面もあると思うので、まずは、どうして木造建築に取り組む必要があるのか、そこに県産材というものをどうやって活用するのが一番現実的で、うまく収めていけるのかをストーリーにして訴えていく必要がある。
- ・計画改定へのコメントとして、県産材を使った住宅支援の際に、施主にあわせて植樹活動の機会を特典としてプレゼントする等、今までとちょっと違った切り口のストーリーづくりを盛り込めば、コストだけでなく木に興味をもってもらえる機運の上昇につながるのでは？と感じた。

○ウッドリンク(株)

- ・我々の会社では、CoC 認証をやめて、LCA 認証の取得に切り替えるような状況になっている。引き続き、高岡の方で木材供給に協力していきたいと考えている。
- ・ストーリー性の話が出たが、やはりそういう話が前提にないと木をどのように使っていけばいいのかわからないのかなと思う。そしてその次の段階で、どうしてもコストについて考える必要がある。
- ・今度、鉄骨造と木造のコストの差というのはいったい何なのか？ということ WEB 上で説明する機会があるので、ぜひご参考としていただければなと思っています。

○(有)建築科学研究所

・今の状況として、県内で住宅についてはかなり木造住宅が多いし、木材のサプライチェーンについてもきちんとした流れがあるので、県産材を拡大していくのはなかなか難しいところがある。非住宅については木造が一般化してきており、我々設計者としても取り組みやすい状況になっている。

・木造に取り組むときのハードルとして、まず上がるのはもちろんコストの問題。また技術的なハードルもあり、様々な設計の中での問題や、木材調達の問題が上がる。そういった問題についても、ワンストップとまでは言えないが、相談窓口として回答できるように、需給情報センターの立ち位置を変えていけたらなと思っている。

・今、需給情報センターは、単体の大型プロジェクトに対して動くような体制になっているので、大型以外の非住宅分野での流通もスムーズにいくように、あるいは設計者も取り組みやすくなるように、情報を流していけるセンターを目指していきたい。

○(株)鈴木1級建築士事務所

・設計の立場からすると、LCA 制度は設計側の負担は出てくるなと思った。また、ストーリー性という、作るだけじゃないというところが必要になってくるという話だが、設計側がストーリー性を舵取りするような形をとるとすれば、設計側が全体を見る必要があると思うので、県の基本計画にもある建築士の育成というのはすごく大切なことだと思う。今回の会議のことも設計者に共有していきたい。

・「富山県内での木造建築物の建て方～コスト編～」について、設計側から言えば、木造のコストの話と併せて、鉄骨造と木造の比較の事例があればわかりやすいと思った。また、建築基準法も改正されており、木造に関しても建てやすい条件に変わってきている（構造計算等も変わっている）ので、その辺についても追記できればわかりやすくなるかと。

○ODAIKEN(株)

・我々の会社では、現在、無垢材の製品を扱っていないので、今回の会議に参加して、弊社では何ができるのかということ色々考えながら聞いていた。

・木材が使われるためには、市場の受け入れる体制というか、エンドユーザーの受け入れる体制が非常に重要なのかなと感じた。均一な製品の品質が求められて、天然のものから人工のものに変わってきた中で、お客さんの意識が、多少割れてもいい・節があってもいいという認識になる土壌が育てば、木材がもっと使われていくのかなと感じた。

○タカノホーム(株)

・改定計画の2その他の分野における利用促進の中で、木杭による地盤改良という項目があるが、富山平野の地盤は結構弱いので、住宅を作るにあたり、そこそこ地盤改良率が高い。表層改良や柱状改良をしたうえで住宅を建てることが多いので、解体の際に、地面に埋まっている改良体をどうするか、という問題が起きる。改良体を壊すのに、ものすごく、改良費以上にお金がかかるし、コンクリートをずっと地面に埋めておくのもどうかとかねがね思っており、杭を木材に変えていけたらいいのでは？と考えている。

・「富山県内での木造建築物の建て方～コスト編～」について、木造と鉄骨造の比較について触れているが、内外装工事を抜いて基礎工事と躯体工事のみにした方が、差がパッと出やすいと感じた。また、工期短縮のグラフについても、木造の方が短いと感じた割合が、意外に少ないと感じてしまうので、分類を細かくするなどして、50%以上が木造に対して何かを感じたという形にまとめてはどうかと思った。

○YKK 不動産(株) 黒部事務所

・黒部市の方で再生可能エネルギーを活用した街づくりをすすめている。PLAY EARTH PARK の話で、建物を建てたことで周辺環境が良くなるように進めている、という話があったが、我々のプロジェクトとも共通する部分があると感じた。

・島田木材の話の中で、県産材を活用されているということだったが、過半以上をスギ材以外の材を活用されているということだった。我々のプロジェクトでも同様にスギ以外の県産材の活用を進めたいと考えていたが、なかなか難しかったので、なぜこれだけカラマツ材等を使えたのか、意図的なものがあったのか、砺波だからできたのか等、お話を伺いたい。

⇒((株) 島田木材) カラマツ材は、資源を探したところ、南砺市の市有林に眠っていたのを見つけ、かつ材として搬出しやすい場所にあったので利用ができた。では次も使えるのかというと、かなりハード整備をしないと入れないような場所にあるので、今後県産材としてカラマツを使うのは難しいと思っている。ヒノキにおいても、自治体の協力を得て出荷できる体制をとってもらった。同様に今の段階で継続して材を出荷するのは難しいので、今後、山の資源状況を踏まえた長期的な計画を立てれば、寄せ集めて県内産として使えるのではないかと考えている。

○(株) 北陸銀行

・弊行では入善支店で来年春竣工予定の建て替えを行っており、初の木造2階建てとなる。通常の建築に比べてCO2の排出が50%削減できるというメリットがある。富山県との協定もあるので、内装中心に富山県産材を使う予定。今後県内の他の店舗の建て替えの際も、県産材を使おうと考えている。

・改定計画について、冒頭の話で、国としては向こう5年で製材合板の輸出量を4倍にするということだったが、県の改定計画では輸出に絡むコメントが漏れているように感じた。例えば施策1に輸出に関する施策を盛り込んでどうか。

⇒(部長) 木材輸出に関しては令和8年度末で120億という目標を掲げていたが、R6まで実績はほぼ0.25だった。しかしR7で増えており、今後どうするか検討していきたいと思っている。おそらく外材価格があがって利用できなくなったことによるもので、チャンスだと思っている。

○富山県素材生産組合（(株) 島田木材）

・「富山県内での木造建築物の建て方～コスト編～」について、民間事業者を対象とするのであれば、木材を使おうというインパクトを全面に出さないと、教科書的な内容になり、既に知っていると言われてしまうのでは。

・今回大型建築に携わって、やはり大型建築が木造化されると、非常に材料の木をたくさん使っていただけるので、山は活性化すると感じたし、「こういうところに木材が使われるんだ」ということで、生産者の皆さんの喜ぶ顔が見えた。

・非住宅を今後伸ばしていくとすると、大型案件（例：データセンターや半導体工場）をどう木造にできるかというプロジェクトが必要だと感じた。大きな建物の一部だけでも木造化して、温暖化やCO2削減というようなところに働きかけていければ、県内の木材利用は進むとすごく思う。1件1件働きかけるような意識をこの会も含め持っていければいいと思うので、ぜひよろしくお願いいたします。

（6）長野アドバイザーよりまとめ

・今回様々な木造化事例の話が出て、このウッド・チェンジ協議会で、みんなが力をあわせている証左だなと思っている。

・「富山県内での木造建築物の建て方～コスト編～」について、コストもいいが、コストをどう見るのかという話もあると思う。ランニングコストも考えると実は木の方が安いとか、デメリットかもしれないがメンテナンスコストの話も入れるようにした方が、判断材料として誠実だと思う。逆に、木のぬくもりだとか、社員の生産性向上の話等の事例があれば出していいと思うし、CO2削減だとか炭素をこれだけ貯蔵できている等の話も併せて出して、相対的に木を選んでいただく、という形にすると、「富山の森を次の世代につなげます」というストーリーに繋がっていくのではと思った。

・国の基本計画にあるバイオマスエネルギーについては、実証の結果をよく見極めるといいと思う（ユーカリ植えて育たない、コウヨウザンが枯れた等色々ある模様）。ヤナギがいいというデータもあるが、育てられる大面積の平地が確保できるかなどの課題もある。

